

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(高学年型)

学校名
東広島市立板城小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	2	2	2	2	2	2	12	3	15

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第5、6学年の指定教科

指導教科名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
理科	6	2	3	6	
理科	5	2	3	6	
外国語	6	2	2	4	
外国語	5	2	2	4	

授業時数 計 20 (a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
国語	2	1	1	1	
外国語活動	4	2	1	2	

授業時数 計 3 (b)

授業時数 合計 23 (a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	2	1	2	1
6年 1組 (担任: A)	A	A	A	B	推進	専科	A	B	A	推進	A	A	A
6年 2組 (担任: B)	A	A	B	B	推進	専科	A	B	B	推進	B	B	B

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	道徳	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	5		2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	2	1	2	1
5年 1組 (担任: C)	C	C	C	C	推進	専科	D	C	C	推進	C	C	C
5年 2組 (担任: D)	D	D	D	D	推進	専科	D	C	D	推進	D	D	D

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	外国語活動	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	7		2.6	5	3	1.7	1.7	3	1	1	2	1
4年 1組 (担任: E)	E	E	E	E	F	専科	E	E	E	推進	E	E
4年 2組 (担任: F)	F	F	E	F	F	専科	F	F	F	推進	F	F




教科等	国語	書写	算数	生活	音楽	図工	体育	道徳	特別活動
週当たり標準授業時数	9		5	3	2	2	3	1	1
2年 1組 (担任: G)	G	推進	G	G	専科	G	G	G	G

4 高学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数(d)	授業時数の合計(c)+(d)
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
6-1	33	A	6-2	国語	4	6.4	16	22.4
			6-2	書写	1			
			6-2	図工	1.4			
6-2	32	B	6-1	算数	5	6.6	16.2	22.8
			6-1	家庭	1.6			
5-1	27	C	5-2	家庭	1.7	1.7	21.2	22.9
5-2	28	D	5-1	図工	1.4	1.4	20.9	22.3

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<p>〈効果のあった取組〉</p> <p>① 予備実験を行うなど、教材研究を充実させ、授業中での児童の深い理解につなげた。</p>	<p>〈成果〉</p> <p>① 児童の興味・関心を高め、目的をもって観察・実験させることで学びも深まった。</p>
	<p>〈単元末テスト〉 (知識・技能) 正答率70%以上の割合 理科 第6学年 89.2% 第5学年 94.5% 外国語 第6学年 86.1% 第5学年 96.3%</p>
<p>② 職員室の座席配置を工夫し、日頃から児童の情報を共有しやすい環境を整えた。配慮が必要な児童については、頻繁に担任と情報共有をし、対応について共通理解を図るようにした。</p>	<p>② 授業での声かけの仕方や人間関係についての配慮をすることができた。</p> <p>〈児童アンケート〉 「教科担任制の授業が楽しみ」 肯定的回答 93.9% 「中学校から教科ごとに先生が代わることに不安がなくなった」 肯定的回答 93.9%</p>
<p>③ 外国語科では、中学校の外国語科の授業を意識し、ALTと連携して英語での指示を増やしたり、児童が英語を使う場面を意図的に設定したりした。</p>	<p>③ 英語の指示を聞き取って考えたり、答えたりすることができる児童が増えてきた。ALTと英語でコミュニケーションをとろうとする児童が増え、英語に対する苦手意識を軽減することにつながった。</p> 
<p>④ 理科では、植物の管理をしたり、生き物等の観察のために顕微鏡を教室前に設置したりするなど、学習環境を整え、観察・実験の充実を図った。</p> 	<p>④ 担任の担当教科を減らすことで、教材研究の負担を軽減できるとともに、互いに担当教科の教材研究に専念することにつながっている。また、理科に関わる環境を整えることで、日々の学校生活の中で、児童が植物や生き物に親しむことができた。</p>
<p>〈課題〉</p> <p>① 植物の発芽やメダカのとまごの観察、天体の観察などタイミングが合わないことがある。</p> <p>② 児童が、その場で困っていることをなかなか言い出しにくく、後に担任から児童が授業中に困っていたことを聞くことがあった。</p> <p>④ 休んだ児童の補充学習や、時間内に課題が終わらなかった場合などの声かけなど、担任の負担になることがある。</p>	<p>〈対策〉</p> <p>① 朝の時間や休憩時間など空き時間に紹介したり、教室に観察物等を置いておいたりするなど、担任と連携をとる。</p> <p>② 児童とのコミュニケーションを大切にするとともに、担任との連携を密にし、対処する。</p> <p>④ 授業の中で課題をやらせきるなど担任の負担にならないよう心掛ける。</p>